

◆ブラックマジックデザイン：アテネ・フランセ文化事業株式会社、フィルムのアーカイブおよび修復に Cintel Scanner を使用



Blackmagic Design は、アテネフランセ文化事業株式会社が Cintel Scanner を導入し 35mm および 16mm フィルムのデジタル化に使用していることを発表した。同社では Cintel Scanner および DaVinci Resolve Studio を使って、古いドキュメンタリーフィルムやアートフィルムを中心にスキャンおよびデジタルレストア（修復）を行なっている。

アテネ・フランセ文化事業株式会社は元々、100 年以上の歴史を持つフランス語学校、アテネ・フランセの国際交流部門として 1970 年に設立された。映画による国際交流を目的にシネマテークとして世界各国の映画や映像作品の上映、映画人を招聘しての講演会やワークショップなどを行なってきた同事業部は、その後アテネ・フランセ文化事業株式会社として独立し、映画の字幕制作や DCP 化作業などを始めとする映像制作業務や上映事業などを行なっている。

同社の主な業務のひとつとして、古いフィルム作品のデジタルレストアのコーディネートがあるが、フィルムのデジタル化に関してはスキャナーが高額だったこともあり、外部のラボに仕事を依頼していたという。



同社赤松幸洋氏はこう語る。「スキャン作業を内製化できるといいとずっと考えていたので、実は Cintel Scanner が発表された当初にも導入を検討していました。しかし当時の PC や周辺機器のスペックに関して運用面で不安があり、導入を躊躇っていました。その後、周辺機器のスペックが高くなる反面、コストは下がってきたのでスキャナーを導入することにしました。導入にあたってはコスト面とリアルタイムスキャンができるというスピード面から、Cintel Scanner を選定しました。」

インディペンデント系のアート作品を多く扱う同社では、古いロシア映画、70 年代のアートフィルムやアンダーグラウンドフィルム、60～70 年代の国内ドキュメンタリー作品、90 年代の国内インディペンデント映画などのデジタル化を進めている。「国内の例を挙げると、弊社でオリジナルネガからレストアした瀬々敬久監督の

90 年代の作品が今年 3 月に瀬々敬久特集で上映されました。また小川紳介監督のドキュメンタリー作品のレストアを現在進めています。」

「Cintel Scanner はコンパクトで設置に困らないこと、そして操作がシンプルである点がいいですね。

またフィルムを安全に扱えるようにデザインされていると感じます。また、スキャン時にリアルタイムで映像と音声を確認できる点も便利です。また、弊社では古いフィルムを数百本収蔵しています。これらの状態確認などに以前はドイツ製のフィルム編集機を使用していましたが、年々保守が難しくなってきたため、Cintel をフィルムビューアーとしても使用しています。」

また同社では、Cintel Scanner および DaVinci Resolve Studio の他にも ATEM Television Studio や UltraStudio 4K、Teranex AV、DaVinci Resolve Mini Panel、Smart Scope Duo、Smart Scope Duo、Smart View HD、UltraStudio HD Mini、UltraStudio 3G、HyperDeck Studio などの Blackmagic 製品を使用している。



「ATEM スイッチャーは当初上映イベント現場での映像切り替え用に導入しましたが、現在は主にライブ配信で使っています。DaVinci Resolve Mini Panel は持ち運びしやすいので、スキャン時に微調整するために使ったり、スキャン後にスタジオでじっくり色を調整したり、必要に応じて移動させて使っています」と語るのはポストプロダクション業務を担当する桑原広考氏。

桑原氏はこう続ける。「Cintel と DaVinci Resolve が連携している点はメリットだと感じます。古いフィルムを扱うので、褪色の補正やパラ傷の修正、グレイン調整は必須で、それらを全て DaVinci Resolve で行なっています。Mini Panel があることで、グレーディング時に操作画面を見ながらマウスではできない細かい調整ができることに重宝しています。」

最後に赤松氏はこう語った。「上映活動や映画祭などの業務に携わっていると、たくさんの貴重なフィルムがなかなか日の目を見ずに埋れてしまっていると感じます。名作と言われる作品はレストアが行われているようですが、我々が関わるようなインディペンデント系の作品は予算の制約もありデジタル化が進んでおりません。また、フィルムを上映できる映画館が減っており、フィルムしか残っていない作品は上映自体が難しい状況です。さらにデジタルマスターがあっても放送用や DVD 用のテレシネ素材しかないものもあり、デジタルシネマのクオリティに達していないものも少なくありません。そういった作品を Cintel Scanner を使ってより良い品質で観客に届けていきたいですね。」



www.blackmagicdesign.com/jp

◆キャノン/キャノンマーケティングジャパン：広角ズームレンズ“RF14-35mm F4 L IS USM”を発売 焦点距離 14mm の超広角撮影とズーム全域での高画質を実現

キャノンは、「EOS R システム」の交換レンズ「RF レンズ」の新製品として、プロ・ハイアマチュアユーザー向けの広角ズームレンズ“RF14-35mm F4 L IS USM”を2021年9月下旬に発売する。

“RF14-35mm F4 L IS USM”は、焦点距離14mmの超広角撮影を

実現し、描写性能や操作性、堅牢（けんろう）性などで最高水準の性能を追求した「L（Luxury）」レンズ。「RF レンズ」のラインアップに、ズーム全域で開放F値4の高画質と携帯性を両立した広角ズームレンズを加えることで、広角・標準・望遠からなる「F4 L IS USM ズームレンズシリーズ」としてユーザーの多様なニーズに応える。

■表現の幅を広げる焦点距離 14mm から 35mm の広角ズームレンズ

焦点距離 14mm の超広角撮影を実現している。現行の EF レンズ^{*1}と比較して焦点距離が 2mm 広角化することで、より広がりのある映像表現や、遠近感を強調した撮影が可能。

14mm から 35mm の焦点距離をカバーすることで、風景や建築、スナップ、ポートレートなど多様な撮影シーンに対応する。

■ズーム全域での高画質と小型・軽量を両立

「UD レンズ^{*2}」2 枚、「UD 非球面レンズ」1 枚、「ガラスモールド非球面レンズ」2 枚を含む 12 群 16 枚の光学設計により、画質劣化の原因となる諸収差を低減し、ズーム全域で中心部から周辺部までの高画質を実現している。さらに、カメラ側の電子歪曲収差補正^{*3}を生かした小型・軽量設計により、全長約 99.8mm、質量約 540g の優れた携帯性を実現している。

■シャッタースピード換算で 7.0 段の手ブレ補正

「EOS R5」（2020 年 7 月発売）装着時は、ボディー内の手ブレ補正機構と協調制御することで、静止画撮影時に 7.0 段^{*4}の手ブレ補正効果を実現し、動画撮影時も高い手ブレ補正効果を発揮する。また、ボディー内手ブレ補正機構を搭載していない「EOS R」（2018 年 10 月発売）装着時も、レンズ内光学式手ブレ補正機構により 5.5 段^{*4}の手ブレ補正効果を実現している。

製品名	希望小売価格	発売日
RF14-35mm F4 L IS USM	オープン価格	2021 年 9 月下旬

*1 「EF16-35mm F4L IS USM」（2014 年 6 月発売）。

*2 「UD（Ultra low Dispersion= 特殊低分散）ガラス」を用いたレンズ。

*3 画像処理で歪曲収差を補正すること。

*4 焦点距離 35mm 時。CIPA 規格に準拠。Yaw/Pitch 方向。



RF14-35mm F4 L IS USM

<主な特長>

1. 表現の幅を広げる焦点距離 14mm から 35mm の広角ズームレンズ

- ・焦点距離 14mm の超広角撮影を実現。現行の EF レンズ「EF16-35mm F4L IS USM」と比較して焦点距離が 2mm 広角化することで、より広がりのある映像表現や、遠近感を強調した撮影が可能。
- ・14mm から 35mm の焦点距離をカバーすることで、風景や建築、スナップ、ポートレートなど多様な撮影シーンに対応。

2. ズーム全域での高画質と小型・軽量を両立

- ・RF マウントの大口径・ショートバックフォーカスがもたらす自由度の高いレンズ設計により、高画質化と小型・軽量化を両立。カメラ側の撮像面近くに大口径レンズを配置できるため、焦点距離 14mm から 35mm のズーム全域での高画質を実現。

- ・「UD レンズ」2 枚、「UD 非球面レンズ」1 枚、「ガラスモールド非球面レンズ」2 枚を含む 12 群 16 枚の光学設計により、画質劣化の原因となる諸収差を低減し、焦点距離 14mm から 35mm のズーム全域で中心部から周辺部までの高画質を実現。

- ・特殊コーティング「SWC（Subwavelength Structure Coating）」と「ASC（Air Sphere Coating）」の 2 種類を採用。レンズ内の光の反射が撮影画像に入り込んでしまうフレアやゴーストなどの発生を低減。

- ・カメラ側の電子歪曲収差補正を生かした小型・軽量設計により、全長約 99.8mm、質量約 540g の優れた携帯性を実現。

- ・「EF16-35mm F4L IS USM」装着時の「EOS 6D Mark II」（2017 年 8 月発売）と比較して、「RF14-35mm F4 L IS USM」装着時の「EOS R6」（2020 年 8 月発売）は、焦点距離を広角化しながら、全長約 14% の短縮化と、質量約 12% の軽量化を達成。携行・撮影時の負担を軽減。

3. シャッタースピード換算で 7.0 段の手ブレ補正

- ・「EOS R5」装着時は、ボディー内手ブレ補正機構との協調制御により、静止画撮影時に 7.0 段の手ブレ補正効果を実現。動画撮影時も高い手ブレ補正効果を発揮。

- ・ボディー内手ブレ補正機構を搭載していない「EOS R」装着時も、レンズ内光学式手ブレ補正機構により 5.5 段の手ブレ補正効果を実現。動画撮影時は、カメラの電子式手ブレ補正機能と協調する「コンビネーション IS」により手ブレを低減。

4. 快適な近接撮影や動画撮影を実現

- ・RF マウントの特長の一つであるショートバックフォーカスを生かしたリアフォーカスレンズの配置により、最短撮影距離 0.20m、最大撮影倍率 0.38 倍の近接撮影を実現。

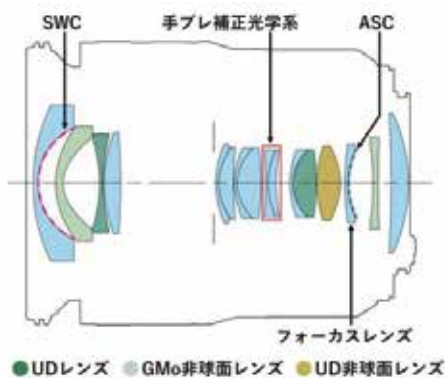
料理や小物などの被写体により接近し、ボケ味を生かした撮影や、広角レンズならではの遠近感を強調した迫力のある撮影が可能。

- ・フォーカス位置により画角変化が生じてしまう「フォーカスブリージング」を低減し、「EF16-35mm F4L IS USM」と比較して画角変化の少ない安定した構図での撮影が可能。



16mm
14mm

焦点距離 14mm の作例 焦点距離 14mm と 16mm の画角比較のイメージ



RF14-35mm F4 L IS USM
(14mm 時) 光学構成図



大きさや重量の比較

フォーカス後に構図調整をする手間が少なくなり、動画撮影などでの快適性が向上。

・超音波モーター「ナノ USM」により、静止画撮影時の高速 AF と動画撮影時の滑らかな AF が可能。フォーカスレンズ群の軽量化による AF 速度の高速化も実現し、より快適な撮影を実現。

<主な製品仕様>

製品仕様の詳細は、ホームページをご参照ください。

<参考:F4 L IS USM ズームレンズシリーズ>

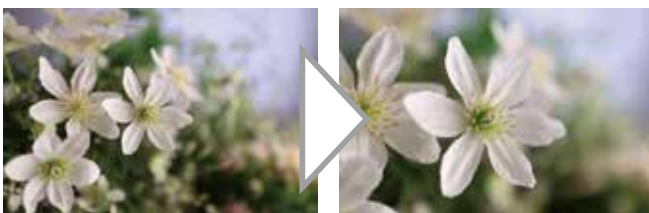
EF レンズにおける「F4L ズームレンズシリーズ」は、ズーム全域での開放 F 値 4 の高画質と携帯性を両立するシステムとして、プロ・ハイアマチュアを中心に幅広いユーザーに使用されてきました。キヤノンは、新たに RF マウントの大口径・ショートバックフォーカスによる高画質化と小型・軽量化を実現し、「ナノ USM」や

「コントロールリング」を搭載した「RF14-35mm F4 L IS USM」(2021 年 9 月発売予定) をラインアップに加えることで、「RF24-105mm F4 L IS USM」

(2018 年 10 月発売)、「RF70-200mm F4 L IS USM」(2021 年 3 月発売) とともに広角・標準・望遠からなる RF レンズの「F4 L IS USM ズームレンズシリーズ」を構築し、ユーザーの多様なニーズに応え、撮影領域の拡大に貢献している区としている。



RF レンズの「F4 L IS USM ズームレンズシリーズ」



「EF16-35mm F4L IS USM」
(0.28m、0.23 倍)

「RF14-35mm F4 L IS USM」
(0.20m、0.38 倍)

最短撮影距離と最大撮影倍率による見え方の違い

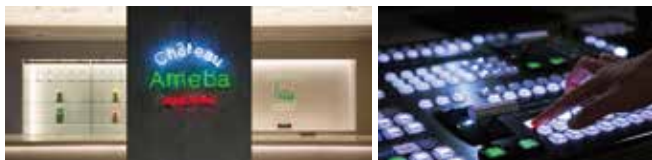
キヤノン株式会社 / キヤノンマーケティングジャパン株式会社

● 一般の方のお問い合わせ先: キヤノンお客様相談センター
0570-08-0002

● E O S ホームページ: canon.jp/eos

◆パナソニック株式会社コネクティッドソリューションズ社 / パナソニックシステムソリューションズジャパン株式会社：サイバーエージェントの番組制作拠点「Chateau Ameba」の8つのスタジオで「IT/IPプラットフォーム「KAIROS（ケイロス）」を受注～直感的で使いやすいGUIで創造性と操作性を高め、さらなる魅力的な番組制作へ～

パナソニック株式会社コネクティッドソリューションズ社（本社：東京都中央区、社長：樋口泰行）およびパナソニックシステムソリューションズジャパン株式会社（本社：東京都中央区、代表取締役社長：片倉達夫、以下パナソニック）は、このたび株式会社サイバーエージェント様の番組制作拠点である「Chateau Ameba（シャトーアメーバ）」の8つのスタジオにて使用する、「IT/IPプラットフォーム「KAIROS（ケイロス）」」を8式受注した。2021年度内の運用開始に向けて、順次納入予定。なお8つのスタジオでの運用は、業界最大規模※¹の事例。



昨今、放送業界では、映像コンテンツの多様化、映像表現技術の高度化による制作機材のコスト増や人材不足による多忙、かつ現場主体の労働環境が放送局や映像制作会社の課題となっており、より魅力的なコンテンツの制作と運用効率化、及びリモートオペレーション等の両立など、映像制作におけるプロセス改革が急務となっている。

「Chateau Ameba（シャトーアメーバ）」は、「ABEMA」の番組制作拠点でもあります。多彩なジャンルの約20チャンネルを24時間365日放送している「ABEMA」では、効率よく、かつクオリティの高い番組を制作する必要がある。

そこでこの度、非常に高いシステムの柔軟性をもち、多種多彩なコンテンツの制作・運用を可能にする、KAIROSが採用された。特に、GPU映像処理によるME数・KEY数に制約されないマルチレイヤー構成や、直感的で使いやすいGUI、またITベースのオープンアーキテクチャーによる機能拡張性を高く評価された。これらの機能により、あらゆるジャンルの番組を持つABEMAの演出においても、表現力豊かに効率よく制作・運用することが可能となる。

また、今回の受注に関して、株式会社サイバーエージェントスタジオ運営センター近藤信輝様より以下のコメントをいただいています。

「ABEMAはテレビの再発明を標榜しています。技術的にも、これまでにないチャレンジが必要である状況において、KAIROSの開発コンセプトは、私達の目指す方向と同じなのではないかと考えています。KAIROSの性能もとても魅力です。」

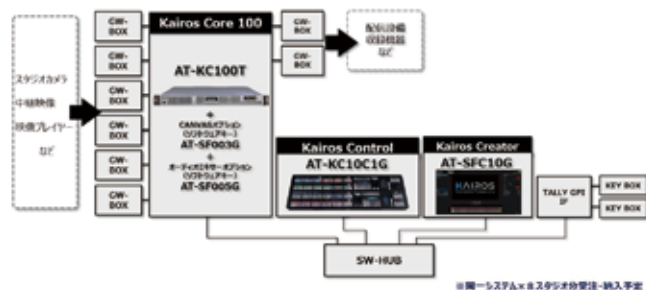
今回は同時に8台を導入することで、様々なジャンルの番組を制作する方々に広く利用して頂き、視聴者の方にも番組の面白さが伝わる表現をするチャレンジをして頂けると思います。今後は、リモートプロダクションやIPを利用したワークフローの改革、4Kや縦長動画など多彩なフォーマットに対応できるように、継続的にパナソニック様にフィードバックをさせて頂き、製品のアップデートに貢献したいと考えています。」

株式会社サイバーエージェントスタジオ運営センター近藤信輝氏

パナソニックは今後も、映像とITを結ぶプラットフォームをこ

提案することで、ライブ映像制作現場の課題を解決し、業界に新たな価値を提供していくとしている。

【主なシステム構成】



- ・ Kairos Core 100 (AT-KC100T) x 1 CANVAS オプション (ソフトウェアキー) AT-SF003G、オーディオミキサーオプション (ソフトウェアキー) AT-SF005G 含む
 - ・ Kairos Control (AT-KC10C1G) x 1
 - ・ Kairos Creator (AT-SFC10G) x 1
- 8スタジオに同一システムで納入。

【IT/IPプラットフォーム「KAIROS（ケイロス）」について】

パナソニックが独自開発した、CPU および GPU の能力で映像処理を行う、新しいコンセプトとアーキテクチャーによるライブ映像制作プラットフォームです。プロスポーツ、コンサートなどの各種イベントおよび放送局の映像制作・会場演出・映像配信の用途に向けて、ライブ映像制作のクオリティと生産性を飛躍的に向上させるとしている。

<主な特長>

- 1. 多彩な映像表現**
 - ・ GPU パワーの許す限りレイヤーを重ね、KEY やスケーリングを設定可能
 - ・ 多彩なエフェクト機能とタイトルジェネレーターを搭載
- 2. 直感的な GUI のソフトウェア**
 - ・ GUI で各種設定・オペレーションが可能な PC ソフトウェア
 - ・ マルチビュー映像 (MV1/MV2) のモニタリングが可能
- 3. オープンなプラットフォーム**
 - ・ ソフトウェア追加による機能拡張や外部機器連携が可能
 - ・ 強力なマクロ機能を搭載、一連の操作をまとめて呼び出す制御の自動化が可能
- 4. IP 技術への対応**
 - ・ ST2110、NDI の IP の入出力に加え、SRT/RTP/RTMP/RTSP のストリーミングにも対応
 - ・ IP ベースの同期規格である PTP (Precision Time Protocol) にも対応

▼ IT/IP プラットフォーム KAIROS（ケイロス）

https://panasonic.biz/cns/sav/products/it_ip_platform/

▼ パナソニック放送・業務用映像システム

<https://panasonic.biz/cns/sav/>

※ 1) 2021年6月29日時点、パナソニック調べ。

* パナソニックグループの持株会社制への移行にともないパナソニック株式会社コネクティッドソリューションズ社、パナソニックシステムソリューションズジャパン株式会社は2022年4月より、「パナソニックコネクスト株式会社」に変わります。

【問合せ先】 パナソニックシステムお客様相談センター

電話：0120-878-410（受付：9時～17時30分<土・日・祝日は受付のみ>）